

# まんだら通信

第181号(通巻212号)

平成23年(2011)07月 佛誕2577年 皇紀2671年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
<http://www.shiunji.org/>  
Mail post@shiunji.org

## 日本人の心のあり方

20世紀が終わろうとする頃、アメリカのサミュエル・P・ハンティントンという政治学者が、『文明の衝突』という説を唱えました。

世界を中華文明、イスラム文明、西欧文明、東方正教会文明、ヒンドウ文明、ラテンアメリカ文明、アフリカ文明などと8つほど挙げた中に日本文明があります。

読んでおわかりのように、日本以外の文明はすべて二つ以上の国や民族を含んでいます。嘗て四大文明の一つであった中国大陸のすぐ隣にあって、儒教・漢字・社会制度・仏教など沢山の事柄を受け入れたのに、よく調べると、もの考え方や暮らし方、高度な技術の活かし方など、中国の人たちとは明らかに違っており、ハンティントン先生は結論づけたのですね。

『20世紀最後の武士外交官』といわれ、平成16年に百一歳で亡くなった、加瀬俊一のお子さんと外交評論家加瀬英明さんの、七月一日配信のメールマガジン(申し込んでおくと、電子メールとして送ってくれます)『日本人の心に在るもの』を読んで、成る程、これも日本だけが世界と違うということの一つなんだ、



と気がきました。

インド・北ヨーロッパ・ギリシャその他、民族固有の最高の神はみな男性です。

有り余る力で、たとえ自分の我侭から出たことであっても、従わないものは情け容赦なく征服してしまします。ユダヤ教の聖書で、キリスト教の『旧約聖書』も残虐な話が沢山出てくるそうです。

イエス・キリストは、神は愛であると説きました。キリスト教の聖地エルサレムがイスラム教徒に奪われた時、キリスト教徒はこれを奪い戻すことを理由に、十字軍を繰り出して約百年あまり、血なまぐさい争いをしました。

日本の最高の神様は、いうまでもなく天照大神ですが、最高神が女性というの文明世界では日本だけだそうす。

弟神、素戔嗚尊の乱暴狼藉を叱ることもせず、ご自分が『天の岩屋戸』にお隠れになります。

世の中が真つ暗になって困り果てた八百万の神さまは、どうすれば大神にお出まし願うかあれこれ相談の上、女の神さま天鈿女命が岩屋の前で滑稽な裸踊りをしたところ、余りのおかしさに神様たちが「高天原に鳴り響くほど」お笑ひになり、何が起ったのかと好奇心を起し、そつと岩戸を開いて半身を乗り出したところを、力持ちの天手力男命がすかさず大神の手を取って表に引き出し、ようやく明るい世界に戻った、というお話があります。

『日の本は岩戸神楽の始めより女ならではの夜の明けぬ国』という狂歌のもとになったお話しです。

神話のような絵空事は教える必要はないと、戦後ずっと学校の教科にないそうですが、学校で神話を教えないのは日本だけ

だそうすよ。

それは兎も角、お分かりのように、悪いことを一方的な力で押さえつけるという考えは、この国にはそもそもありません。もう一つ、「この場合はこうしなさい。」と命令する人がいません。

「命令する人」はつまり「指導者」ですが、英語の『リーダー』に当たる考えは日本になかったのだそうで、明治になって沢山作られた翻訳語の一つなのだそうす。

つまりこれは、神代の昔から本當の意味での民主主義を実行していた、ということですね。

歴史時代になってからも、この考え方に変わりはなく、聖徳太子が公務員に示した憲法十七条も、最後の第十七条は「大事なことを一人で決めてはならない。大切なことは全員で良く相談せよ」です。

また、その後、女帝皇極天皇は大化の改新を断行しました。その中でもやはり「万民治むるは、独り治むるべからず。かならず民のたすけを待つ」と、勅したもうたということす。

更に時代が下って明治天皇は「五箇条の御誓文」や「教育勅語」など、私も国民もともに実行しようではないか、と呼びかけておられます。

更に付け加えると、勝負事や芸事を、強いものが勝ちとか、綺麗ならば良いで終わらせず『道』にしてしまうのは日本だけですね。

土俵の上で試合前と終わってから、必ず互いに一礼しますし、剣道、柔道、碁将棋もみんな同じです。ガッツポーズした朝青龍がひんしゆくを買ったのは、大和心をしっかりと理解していなかったからですね。

「今日は偶々私が勝ったけれども、あなたも実に強かった」という謙讓の心。相手を思いやるこの心こそ、日本人が世界に誇って良い心の持ち方だと思います。

◆梅雨が明けました。昔、お年寄りが「一年毎だあろう」と、体力の衰えを嘆いていました。

9月5日で77歳。この言葉がヒシヒシとわかるようになりました。そして「梅雨明け10日」。

体が暑さに慣れていませから、お互い、呉々も体調に気を付けたいものです。

◆何年か前にも取り上げた上の写真。鴨川市太海海岸のスカシユリです。渚から離れた岩の上、どんなにかき集めても植木鉢一杯にも足りないような土を足がかりに、毎年花を咲かせます。

耐え忍べば、やがて花が咲くと

きがあるんだよと励まされているような、そんな気持ちになります。◆数年前から、庫裡の玄関の上の蛍光灯の笠に、ツバメが巣作りをしていました。

毎年子育てに失敗していましたが、今年は場所を変えて本堂になりました。

今年もダメかも知れないと思っていたところ、数日前に5羽のヒナが孵りました。

ホントいと迷惑なことでもありますが、日の出から日の入りまでせつせつと餌を運ぶ親鳥を見ると、つい応援してしまします。◆10年ほど前でしょうか、庭の芝生に見慣れない草が生え

ました。やがて花の穂が伸びて15センチぐらいになったところで、らせんのように小さな小さな花が咲きました。ネジバナ(モジズリ)【ラン科ネジバナ属】でした。この白浜では、野島崎灯台の周りの芝生に沢山生えていますね。◆先月終わり頃、アンギラサお坊さんが一晩泊まって行きました。去年11月以来、手許に貯まっていた『あそか基金』をお預けしました。何と65万円になりました。以前お断りしたように、まんだら通信にと戴いた分も含めましたが、金額の多さにビックリです。本當に有難うございました。2011/07/10 龍渉



## 余滴

「につぼん人情小噺」は、著者三遊亭鳳豊師匠とMOKU 出版さんのご好意で8月号からの転載です。有難うございます。

## につぼん人情小噺

### 第三十六話 退職金

三遊亭鳳豊

私もいい年になりますとね、サラリーマンの方や公務員の方がうらやましくしてやうがない。え、ボーナス？ そんなのはもらえないのが分かっておりますから、それほどではないのですが、なにより垂涎の的は、「退職金」でございますよ。

会社を辞める時に、まとまって十千万円、すごい人なら億円というお金を一度にもらえるのですから、もう、うらやましいかぎりでございます。

そもそも、「退職金」というのは、江戸時代の商家からはじまったそうですね。奉公人が年季明けになりますと、独立するのですが、「のれん分け」の代わりに「のれん代」という独立するための資金援助が主人から渡されたのが、「退職金」のはじまりだそうですね。

それが、さらに、長年の奉公への慰労のお金へと変化していったとも言われています。

その後、明治時代になりますと、就職の際に「うちに勤務してくれたら、辞める時にこれだけ払うよ」という契約が生まれて、そのうちに、長年勤めて辞めると、「退職金」がもらえるようになったそうです。

今日は、そんな「退職金」に関わるお話を紹介いたしましょう。

埼玉県八潮市で、実際にあった話です。以前にも紹介いたしました、この八潮市は「人と人のつながり」をととても大切にしている町で、PTAと学校がとて

まくいつているので全国的にも有名なところ。めずらしいですよ、いまだき、PTAと学校が上手につながっているというの。です。市の成人式でも、学校の先生たちが活躍します。

いまや、テレビなどで紹介される「暴れる成人式」が多いのですが、ここはちがいます。なにしろ、新成人が成人式を終えるのを、かつて通った高校や中学の恩師の先生たちがお祝いにかけてくれるからです。

「新成人、おめでとう」

「先生、来てくれたんですか、ありがとうございます」

新成人もまさか自分が卒業した学校の先生が待っていてくれるなんて思ってもいせんから、成人式と同窓会がいつしよにやれるので、記念写真を撮ったり、思い出話に花を咲かせたり、それこそ思い出に残る素晴らしい一日になるわけです。

ところが、新成人になるのは、すべて八潮市の出身者とはかぎりません。

高校を卒業後、就職先が八潮市だったために住所を移した人、親の関係で八潮市に引っ越してきた人……彼らには、地元の子のように先生に甘えようにも、恩師がいません。

そんな彼らのために、立ち上がった先生がいました。石黒貢さんという先生です。

石黒先生は、地元出身でない彼らのために、彼らの臨時の「先生」になろうと思っただけです。そして、成人式が終わって、みんながそれぞれの先生のもとに集まるのを待って、「この町以外の学校を卒業した人は、私のところに集まって」と呼びかけたのです。

「成人、おめでとう。君は、どこから来たの？ 学校は？」

「いま、仕事は何をしているの？ 今日私を先生だと思っ、なんでも話して」

石黒先生は、まるで、昔から彼らの恩師であるがごとく、やさしく接してあげました。

若者たちも、知らない先生ですが、いつの間にか、話が弾みました。

それから、数日後のことです。石黒先生が町を歩いていると、ある小さな信用金庫の看板が目に入りました。成人式の日、臨時に恩師になってあげた新成人の若い女性が勤めていると言っていた信用金庫です。

あ、ここで彼女は一生懸命働いているんだな……。がんばってほしいな

そう思った石黒先生は、翌日、退職金を貯金してあった銀行からその一部を下ろし、信用金庫に向かいました。その子は、カウンターのなかにいました。「こんにちは」

「あつ、先生、先日は有難うございました。いい成人式の思い出が出来ました。知らない人ばかりでしたけど、おかげさまで、とても楽しかったです。」

「それはよかった。今日はね、君のところ定期預金にしてもらいたくて、お金を持ってきたんだ」

そう言っ、彼女にお金を渡しました。「えっ、本当ですか。ありがとうございます。早速、いま、お手続きをさせていただきます」

女性は顔を赤らめながら、何度も頭を下げ、とても素直に喜んでくれました。

実は、この話には後日談がありまして、先日、この話を石黒先生がいらっしやる前で、学校の先生方にお話をさせていたいたんですね。石黒先生は、さすがに照れていらっしやいましたけれど。

そしたら、帰り際、石黒先生にある女性の先生が声をかけてくれたんだそうです。「石黒先生、ありがとうございます」

余滴の続きです。

◆全真言国際救援機構 (ASIRA) というボランティア団体があります。主に東南アジアの子どもたちに学校や本、井戸づくりなどを援助しています。先月、東京にある智積院別院真福寺で集まりがありました。会としての他に、それぞれが東北の災害被害地に手助けをしていることが報告されました。被害地に行かないと分からない、耳かきや爪切りなど、言われてみればその通りだなという品物を、何回も届けているそうです。

◆安房の若いお坊さん達が、つい先

日、その被害地にドブ浚いに行ってきました。どれ程の役に立ったか知れたものですが、その気持ちが大切と、私も思います。◆あれから4ヶ月過ぎようというのに、原発も震災被害地も、復興の青写真が未だにはっきりと見えません。

国会議員は衆参合わせて700人余り。1人1年3,000万円の給料は、だてに払っているわけではありません。“一定のめど”などといわず、国の役に立たないガリガリ亡者は、与野党を問わず、すぐにでも議員バッジをお返し戴きたいものです。

なぜ、お礼を言われるか分からなかったのですが、この女性の先生の妹さんも銀行に勤めていて、定期預金の勧誘が大変なのだそうです。ですから、自ら、退職金を引き出して信用金庫に定期預金をしてきたという石黒先生の好意に感動したというのです。

なんでもない、ひとつの好意が「つながっていく」。

私もその話を聞いて、とてもうれしく感じました。先生という仕事は、生徒に授業を教えることだけではないのですね。

「先生から教科書以外で教わったこと、それが教育である」という言葉があります。

現・八潮市教育委員会教育長・石黒貢さんから、私はそのことを学ばせていただいたような気がしました。